

## LEADERSHIP CHALLENGE

大隈塾 LC レポート vol.05

大隈塾リーダーシップ・チャレンジは8月6日(土)、第5回目の授業となるワークショップ「グローバル・コミュニケーション」を行ないました。

講師の本間正人先生は、コーチングやファシリテーション研修の第一人者。ほとんど日本語を使つてのグローバル・コミュニケーションのトレーニングで、「英語を使うとしても自分たちが知っている単語だけでグローバル・コミュニケーションができてしまいますよ」、という実証実験のようなワークショップでした。

まず、英語そのものを学ぶには「e-learning」で十分であり最適だ、と。だから、いつでもどこでも学び直すことができるし、「学び直す」ことを繰り返すことが大事。それは確定している「学歴」に対して、更新し続けられる「学習歴」であり、「学習歴」のバージョンアップが重要だと、学ぶ姿勢を正しました。

その上で、「グローバルってどういうこと？」になります。グローバルとは、

- ・心が広い
- ・多様性(違い)を受け入れられる

この定義が実は、上記の<今まで自分が勉強してきた方法、勉強の仕方、勉強そのもの>の多様性(違い)を見直すことにつながります。

- ・教育 (teaching)
- ・学習 (learning+coaching)

<teaching から learning+coaching>

このあたりで、どうしても強く意識していた「グローバル=外国人、外国文化」の呪縛が解かれ、「グローバル=一人じゃなくて、いろんな人と」という方向に考えが変わってきます。

さらに、「コミュニケーションってどういうこと？」

- ・相手への理解を深めることで、自分への理解も深まる  
→先入観や固定概念、思い込みを減らしていきます
- ・人間関係に影響を与える  
→むしろ「非言語」=表情、動作、声のトーン、視線、距離の影響力が大きい
- ・信頼関係を築く

【ブラインド・ウォーク】をやったことがありますか？

2人1組のペアになって、1人が目をつぶり、もう1人がその人を誘導して歩いてもらう、というアクティビティです。

- ・「もうちょっと右」＝見えてない人にどれだけ「もうちょっと？」
- ・「ここで左に」＝急に指示を出されても困ります
- ・「5m先に階段がある」＝Aさんには12歩が5m、Bさんにとっては10歩が5m
- ・目をつぶっていても光と影がわかる→不安になる  
→信頼が大切→コミュニケーション量を増やす

いいコミュニケーションとは、「なにもないときにとるコミュニケーション」。問題が起こったときにコミュニケーションをとるのは当たり前であって、現状（いまどこにいるのか）、目標（どこに行こうとしているのか）を結びつけて、目標＝ビジョンを持っていない人にビジョンを示し、伝え、共有する。リーダーシップの基本が【ブラインド・ウォーク】にありました。

こうして講義＋アクティビティを繰り返すこと7時間。お昼ごはんやコーヒーブレイクをはさみながらでしたが、まさに「あっという間」でした。大隈塾のメンバーそれぞれが職場に持ち帰って、翌日から実践できるワークショップとなりました。

【受講生のレポートより】

- ・英語が話せる＝グローバルではない。グローバル＝違いに対して寛容でいられるかということとときいて「グローバル」の深さを感じた。
- ・ティーチングとコーチングの違いがよく分かった。相手に合わせてカスタマイズするそしてバージョンアップすることの重要性がよく分かった。
- ・脳のグローバル化＝左右の能をバランスよく使う、感性を重視。これまでも何度もできた感性がここでも！
- ・相違点は悪いことではなくうまく発揮することで持ち味、相乗効果を生む。マジョリティは気づきにくくなるためマイノリティに配慮することが大切。これこそがダイバーシティ。複眼的思考を身に着けなければならない。
- ・Good newsの情報発信がGood newsの循環を生む。ノウハウの共有は素晴らしいことである。業務でも活用したい。

=====

英語コミュニケーションの重要性を説く講義と思ひ込み受講するも、全く違う観点からの講義であり驚いた次第。TeachingとCoachingの違いがあり、個別的に能力を引き出すCoachingが

重要となることは共感。一方で Teaching が E-learning に全て取って代わるとは考えづらいと  
思料するも、Teaching に対しても工夫が必要と感じた。

=====

【3つのキーワード、キープレーズ】(ワークショップでの気づき、印象に残ったこと)

- (1)最終学歴ではなく最新学習歴が重要
- (2)失敗ではなく未成功と読んでみてはどうか?
- (3)何も問題の無いときにも意識的にコミュニケーションをとる

=====

- (1)信頼関係 (信頼関係がないと話す・聞くことができない)
- (2)コーチング (教えるのではなく、相手の思い・能力を引き出す)
- (3)ヒーローインタビュー (相手が頑張ったことを聞いて共感する)

=====

- (1)非言語コミュニケーションの影響。何を言うかよりもどう伝えるかが大切
- (2)Teaching(教え込む)／Coaching(引き出す)
- (3)失敗を未成功と呼ぶ

=====

- (1)人間は学習する存在 (Active Learner)
- (2)コーチングは相手に合わせてカスタマイズ
- (3)一人ひとりのベストの学習法は異なる

=====

- (1)最新学習歴
- (2)teaching ⇔ coaching の違い
- (3)失敗ではなく、未成功

=====

【1つのアクション】(これから実践したいこと。できるだけ具体的に)

学びの多いご講義でしたので実践したいことは数多くありますが、早急に取り入れる必要があるのは聞き手としての非言語コミュニケーションです。リアクションがないことが、話し手に対してもたらず不安や動揺を、ペアワークを通じて体感し、普段の職場における自分の姿勢に照らし合わせ、改善すべき点と考えます。

=====

・何も問題ないときにも意識的にコミュニケーションをとる。今どこにいて、どこへ行こうと  
しているのかを伝える。

問題がなければ特に必要がないように思える、そんなときにもコミュニケーションをとるこ

とでどんな状況か、目標はどこなのかを明確化して不安を取り除き、信頼度がアップするのだということが分かった。

自分のグループメンバーの中にも黙々と業務を実施するメンバーがいるが、積極的に声をかけてコミュニケーションをとり、よりよいパフォーマンスを発揮してもらえるようにしていこうと思う。

大隈塾リーダーシップ・チャレンジレポート vol.05

2016年8月16日発行（通算26号）

大隈塾事務局（一般社団法人ストーンスープ）

村田信之 [mura@ta2.so-net.ne.jp](mailto:mura@ta2.so-net.ne.jp)

169-0051 東京都新宿区西早稲田 1-9-19 アーバンヒルズ早稲田 207

tel:050-3558-7527 mail:[ookuma\\_school@stonesoup.tokyo](mailto:ookuma_school@stonesoup.tokyo)